

令和7年度指定管理業務に関する事業報告書（特養）

施設名 京都市桂川特別養護老人ホーム

1 施設の管理運営

令和7年度は、園全体において「基本理念・行動方針に沿って、職員一人ひとりが力を発揮し、支え合える職場環境を目指す」というスローガンを掲げ重点項目について取り組んだ。

特に「不適切ケアの防止や気づきを発信できるしくみづくり」「経営改善の取り組み」「将来に向けた老朽化対策」「標準的なケアのためのマニュアルの整備」「将来の担い手育成を含む福祉教育の実施」に努めた。また、京都市の介護相談員派遣事業による介護相談員の定期訪問を受け、利用者の生の声や第三者的な視点での気づきを得、サービスの質の改善に努めた。生産性向上についても取り組み、外国籍職員の確保や介護補助職員の確保などを通して、マニュアル整備と合わせた業務の整理に努めた。

事業所としての指揮管理は、施設長・所属長・役職者により、年間の事業計画に基づき運営管理を行うと共に、設置必須の委員会等は園内及び事業所内で漏れなく実施する体制を継続している。

2 事業実施内容

（１）指定管理業務（本来業務：特別養護老人ホーム）
【開所時間及び開所日】24時間365日
【利用定員】特別養護老人ホーム(50名)
【サービス内容】
・施設サービス計画の作成・個別機能訓練の実施・栄養ケアマネジメント計画の作成実施
・健康管理・食事・排泄・入浴・口腔衛生・生活介護・生活相談・余暇活動・所持品保管・必要な場合の行政手続等

（２）指定管理業務（企画提案業務：指定管理者が提案し、施設内で実施している業務。例：配食サービス）
・居宅介護支援

自主事業の実施状況は、以下の通り。
・自動販売機の設置

3 サービス提供状況

【職員配置】

①管理者	1名	⑤介護職員	18名以上	②医師	3名	⑥管理栄養士	1名
③生活相談員	1名	⑦機能訓練指導員	1名	④看護師	4名	⑧介護支援専門員	1名

再委託の実施状況（協定書に明記のない再委託業務）は、以下の通り。（例：給食調理業務）
・厨房業務
・施設敷地の除草
・宿直業務

4 市内中小企業への発注に対する考え方

・市内中小企業に優先して発注するように努めている。
・近隣の障害者就労事業所への業務委託を行っている。

5 施設の利用状況（本来業務に係る施設の稼働率、利用者数、事業参加者数など）

(1)延べ利用者数

①令和7年度実績値	17,336	人
②令和8年度目標値	17,703	人

(2)稼働率

①令和7年度実績値	95.0	%
②令和8年度目標値	97.0	%

(3) 収支実績

ア 本来業務（特別養護老人ホーム） 令和7年度収入状況及び支出の状況 （単位：円）

介護保険収入	192,195,170
利用料収入	31,865,510
委託料収入	165,000
補助金収入	2,910,038
寄付金収入	0
雑収入	316,642
その他	675,036
収入計	228,127,396

人件費	163,565,937
事業費	48,547,467
委託費	29,147,641
小額修繕費	1,947,307
その他	16,319,150
支出計	259,527,502

オ 令和7年度自主事業（自動販売機）に関する収支状況（単位：円）

収入	
支出	8,264
収支状況	(8,264)

6 施設の利用者満足度の把握

(1) 利用者満足度の把握状況

「満足度調査アンケート」

①実施期間 令和7年9月～10月末

②対象者 利用者及び家族

③調査方法 質問項目：13項目 無記名アンケート方式 5段階評価で実施

(2) 利用者満足度把握の結果

「満足度調査アンケート」結果

【回答者数】家族 36名/48名（回答率75%） 利用者34名/34名（回答率100%）

【評価方法】5段階無記名方式 5良い 4やや良い 3普通 2やや悪い 1悪い

【総合評価】ご家族からの評価結果は「良い」「やや良い」を併せ、利用者の身だしなみについての項目のみ75%と80%を割ったが、その他の項目は全て80%以上の満足度結果が得られた。利用者については項目毎にバラツキが見られ、行事やレクリエーション活動を問う項目については「悪い」「やや悪い」を併せて30%に達した結果となった。

(3) 意見等への主な対応状況

- ・いただいた意見等の内、急ぐ内容は個別に対応を行った。以外は集計結果を踏まえ、部署内サービス向上委員会を開催、検証結果の取りまとめを行い、検証報告を作成し供覧した。
- ・家族には集計結果を書面（広報誌）にて周知し、ホームページ上に掲載した。
- ・第三者委員懇談会を年1回開催し、アンケート内容及び苦情対応状況を報告する。
- ・いただいたご意見から利用者の整容や衣類管理を定期的に行うと共に、行事開催に向けて園全体で見直しを行った。

7 その他特記事項

(1)

(2)

8 評価（指定管理者自己評価）

【施設の利用状況】利用状況は5に記載の通り。入所申請待機者数は年々減少傾向。

【収支状況】例年の倍の年間延べ入院者数による影響があり特に収入に課題があった。

【人材確保】法人単位で人材確保対策実施。正職員・非常勤に関わらず、介護・介護職員の確保が厳しい状況は継続。外国籍職員の確保（特定技能・留学生）は行えたが、夜勤業務の育成が課題である。

【尊厳の保持とサービスの質】全職員対象の人権等の研修を実施すると共に、職員個別ヒアリングや気づきの発信シートを活用し、ケアの課題に気づくことや対応の難しいケースへの対策、職員間のハラスメント対策等に取り組んだ。引き続き工夫改善が必要である。また、障害を理由とする差別の解消に向けた取り組みについては、共有する機会を設けた。

【感染症対策】協力医療機関の感染管理認定看護師や感染制御に関する専門医の指導に基づき、年間を通して感染対策を行った。令和8年2月に新型コロナウイルスのクラスターが発生、幸い重症者はなく、職員に罹患者はなかったが、平時からの標準予防策についての見直しを行う機会となった。

令和7年度指定管理業務に関する事業報告書（短期）

施設名 京都市桂川特別養護老人ホーム
短期入所生活介護

1 施設の管理運営

令和7年度は、園全体において「基本理念・行動方針に沿って、職員一人ひとりが力を発揮し、支え合える職場環境を目指す」というスローガンを掲げ重点項目について取り組んだ。
特に「不適切ケアの防止や気づきを発信できるしくみづくり」「経営改善の取り組み」「将来に向けた老朽化対策」「標準的なケアのためのマニュアルの整備」「将来の担い手育成を含む福祉教育の実施」に努めた。また、京都市の介護相談員派遣事業による介護相談員の定期訪問を受け、利用者の生の声や第三者的な視点での気づきを得、サービスの質の改善に努めた。生産性向上についても取り組み、外国籍職員の確保や介護補助職員の確保などを通して、マニュアル整備と合わせた業務の整理に努めた。
事業所としての指揮管理は、施設長・所属長・役職者により、年間の事業計画に基づき運営管理を行うと共に、設置必須の委員会等は園内及び事業所内で漏れなく実施する体制を継続している。

2 事業実施内容

（１）指定管理業務（本来業務：老人短期入所施設）
【開所時間及び開所日】24時間365日
【利用定員】（4名）
【サービス内容】
・短期入所生活介護計画の作成
・送迎・健康管理・食事・排泄・入浴・口腔衛生・生活介護
・機能訓練・余暇活動・所持品保管・必要な場合の行政手続等

（２）指定管理業務（企画提案業務：指定管理者が提案し、施設内で実施している業務。例：配食サービス）
・居宅介護支援事業

自主事業の実施状況は、以下の通り。
・自動販売機の設置

3 サービス提供状況

【職員配置】
①管理者 1名 ⑤介護職員 18名以上 ②医師 3名 ⑥管理栄養士 1名
③生活相談員 1名 ⑦機能訓練指導員 1名 ④看護師 4名 ⑧介護支援専門員 1名

再委託の実施状況（協定書に明記のない再委託業務）は、以下の通り。（例：給食調理業務）
・厨房業務
・施設敷地の除草
・宿直業務

4 市内中小企業への発注に対する考え方

・市内中小企業に優先して発注するように努めている。
・近隣の障害者就労事業所への業務委託を行っている。

5 施設の利用状況（本来業務に係る施設の稼働率、利用者数、事業参加者数など）

（1）延べ利用者数

①令和7年度実績値 359 人
②令和8年度目標値 1,168 人

（2）稼働率

①令和7年度実績値 24.6 %
②令和8年度目標値 80.0 %

(3) 収支実績

ア 本来業務（老人短期入所施設）

介護保険収入	3,886,298
利用料収入	779,821
委託料収入	0
補助金収入	112,535
寄付金収入	0
雑収入	0
その他	702
収入計	4,779,356

令和7年度収入状況及び支出の状況（単位：円）

人件費	0
事業費	341,111
委託費	819,791
小額修繕費	0
その他	183,380
支出計	1,344,282

6 施設の利用者満足度の把握

(1) 利用者満足度の把握状況

「満足度調査アンケート」

①実施期間 令和7年9月～10月末

②対象者 利用者

③調査方法 質問項目：13項目 無記名アンケート方式 5段階評価で実施

(2) 利用者満足度把握の結果

「満足度調査アンケート」結果

【回答者数】2名/2名（回答率100%）

【評価方法】5段階無記名方式 5良い 4やや良い 3普通 2やや悪い 1悪い

【総合評価】評価結果は全て「やや良い」以上の評価のとなっている。令和7年度下半期は職員体制が整わず、利用者の受け入れを一時的に制限していた為、対象利用者が2名となった

(3) 意見等への主な対応状況

- ・いただいた意見等の内、急ぐ内容は即対応を行った。以外は集計結果を職員で供覧の上、振り返りを行った。
- ・家族には集計結果を書面（広報誌）にて周知し、ホームページ上に掲載した。
- ・第三者委員懇談会を年1回開催し、アンケート内容及び苦情対応状況を報告する。
- ・いただいたご意見から接遇マナーの内、特に言葉使いの改善・挨拶の励行や、ご利用者主体の環境整備について改善をした。

7 その他特記事項

(1)

(2)

8 評価（指定管理者自己評価）

【施設の利用状況】利用状況は5に記載の通り。職員体制から新規確保が消極的となった。

【収支状況】人材確保による影響があり、稼働を抑えたため、特に収入に課題があった。

【人材確保】法人単位で人材確保対策実施。正職員・非常勤に関わらず、介護・介護職員の確保が厳しい状況は継続。外国籍職員の確保（特定技能・留学生）は行えたが、夜勤業務の育成が課題である。

【尊厳の保持とサービスの質】全職員対象の人権等の研修を実施すると共に、職員個別ヒアリングや気づきの発信シートを活用し、課題のあるケアに気づくことや対応の難しいケースへの対策、職員間のハラスメント対策等に取り組んだ。引き続き工夫改善が必要である。また、障害を理由とする差別の解消に向けた取り組みについては、共有する機会を設けた。

【感染症対策】協力医療機関の感染管理認定看護師や感染制御に関する専門医の指導に基づき、年間を通して感染対策を行った。令和8年2月に新型コロナウイルスのクラスターが発生、幸い重症者はなく、職員に罹患者はなかったが、平時からの標準予防策についての見直しを行う機会となった。

令和7年度指定管理業務に関する事業報告書
(地域包括支援センター併設の居宅介護支援又は、老人介護支援センター)

施設名 桂川居宅介護支援事業所

1 施設の管理運営

令和7年度は、園全体において「基本理念・行動方針に沿って、職員一人ひとりが力を発揮し、支え合える職場環境を目指す」というスローガンを掲げ重点項目について取り組んだ。
特に「不適切ケアの防止や気づきを発信できるしくみづくり」「経営改善の取り組み」「将来に向けた老朽化対策」「標準的なケアのためのマニュアルの整備」「将来の担い手育成を含む福祉教育の実施」に努めた。
居宅介護支援事業としては、管理者を含め3名体制（主任介護支援専門員1名、介護支援専門員2名）で運営し、特定事業所加算Ⅲを算定している。管理者（主任介護支援専門員）が介護支援専門員の管理、居宅介護支援の申込に係る調整、業務の実施状況の把握、その他の管理を一元的に行うと共に、運営基準を遵守するべく指揮命令を行っている。必要な委員会等は、園内及び事業所内で漏れなく実施する体制を継続している。

2 事業実施内容

指定管理業務（本来業務：居宅介護支援）
・年間給付管理数 1260件（月平均105件）を目標。結果、1109件（月平均92.4件）1人あたり30.8件
・通常の事業の実施地域 京都市西京区（洛西支所管内・松陽・松尾・嵐山東学区を除く）
・利用相談の受付から要介護認定結果受領後の必要な支援に向け、暫定プランの作成、サービス提供事業所との紹介と決定、サービス担当者会議、居宅サービス計画の決定、計画の実行、モニタリング、利用者・家族・サービス提供事業者との連絡調整、居宅サービス計画の評価、給付管理を行う。
・必要に応じて行政及び地域包括支援センター、医療機関、各関係機関との連携を行う。

3 施設の利用状況（本来業務に係る施設の稼働率、利用者数、事業参加者数など）

(1) 収支実績

本来業務		令和7年度収入状況及び支出の状況		(単位：円)	
介護保険収入	18,139,695	人件費	16,372,989		
利用料収入	0	事業費	0		
委託料収入	204,600	委託費	16,608		
補助金収入	42,000	小額修繕費	0		
寄付金収入	0	その他	1,603,978		
雑収入	48,000	支出計	17,993,575		
その他	516				
収入計	18,434,811				